



芥川龍之介 — 内なる歡びと苦惱

危機の時代、不安の時代こそ 芥川龍之介が求められる

2010年

9月17日(金)

11月3日(水)

会期中無休

開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで)

観覧料 三館共通券 大人(高校生以上) 720円 小人(小中学生) 360円 (単独券、団体割引あり)

主催: 仙北市 仙北市教育委員会 / 編集: 詩人・日本近代文学館名誉館長 中村 稔 / 協力: 財団法人 日本近代文学館

芥川龍之介の生涯

芥川龍之介の遺愛品

芥川龍之介の書画

新潮社記念文学館

角館樺細工伝承館

角館町平福記念美術館

秋田県仙北市角館町田町上丁23 TEL0187(43)3333

秋田県仙北市角館町表町下丁10-1 TEL0187(54)1700

秋田県仙北市角館町表町上丁4-4 TEL0187(54)3888



水虎晩帰之図

「芥川龍之介 — 内なる歓びと苦悩」展の開催にあたって

いま、私たちは時代の転換期にいる。

社会主義体制の諸国は崩壊し、先進資本主義国は金融恐慌の不安、財政破綻、失業率等に悩み、民族間紛争は激化し、技術は人間が制御できないまでに発展し、地球は温暖化し、人類の未来を予見できない状態にある。そうした世界情勢の中で、わが国も政治的、社会的、経済的に混迷の度を深め、まさに危機の時代にあり、人々は不安にさらされている。

芥川龍之介の活躍した時代もまた、第一次大戦時の好況から暗転して、やがて世界恐慌に続く長期的な不況の時代であり、大正デモクラシーといわれる教養主義、ロシア革命を契機とする社会主義、白樺派の人道主義等、さまざまな思想の入り乱れる、転換期であった。まさに危機の時代、人々が不安におののいた時代であった。

芥川は、この時代に真摯に向き合い、不安をかかえながら、その稀有な多才を發揮して、危機の時代と不安な心を描いた作家であった。人生は地獄よりも地獄的であるとは「侏儒の言葉」中の箴言だが、芥川の小説、評論等はまさに地獄より地獄的な過酷な人生を凝視し、人生との壮烈なたたかいかから生まれた。

芥川の自死は、危機の時代を真摯に生きた人間の必然的な悲劇であった。時代の転換期、危機の時代にある、いまこそ、私たちは芥川龍之介の作品、評論等からは多くを学び、多くに共感し、多くの示唆を得ることができるとは思われる。

詩人・日本近代文学館名誉館長 中村 稔

芥川龍之介の生涯 ——— 新潮社記念文学館

展示内容

- ・ 生い立ち ——— 大川のほとりに
- ・ 小説家としての出発 ——— 「新思潮」
(一躍文壇の寵児に)
- ・ 中国旅行
- ・ 家族、友人との交流
- ・ 自死にむかってゆれ動く心
—— 「齒車」「西方の人」「或阿呆の一生」
- ・ 遺書



国語答案(府立三中第一学年)

芥川龍之介の書画 ——— 角館町平福記念美術館

展示内容

- ・ 「河童」—— もう一つの自画像
- ・ 化物帖 —— 芥川の怪奇趣味
- ・ 山水草木図 —— 水墨画を中心に
- ・ 行燈之会 —— 小穴隆一らとの交流
- ・ 俳句、短歌、漢詩



～一目怪～ 「化物帖」より

芥川龍之介の遺愛品 ——— 角館樺細工伝承館

展示内容

- ・ 書斎を復元するとともに、芥川の遺愛の品々を展示します。
「文机(漱石夫人より贈られる)」、
「ペン軸(S2.7まで使用)」、「硯」、
「硯屏」、「建水」、「火鉢」ほか
- ・ 中国服 他



机辺の品から

至秋田 国道46号 至盛岡

小野崎家 ● 平福記念美術館 ● 武家屋敷通り ● 角館樺細工伝承館 ● 石黒家 ● 青柳家 ● 岩橋家 ● 河原田家 ● 小田野家 ● 松本家 ● 仙北市役所 角館庁舎 ● 西宮家 ● 新潮社記念文学館 ● 角館駅

交通のご案内

■ JR利用
 東京—角館(新幹線)約3時間10分
 仙台—角館(新幹線)約1時間10分
 盛岡—角館(新幹線)約45分
 秋田—角館(新幹線)約45分

■ 車利用
 東京—盛岡I.C 約6時間10分
 仙台—盛岡I.C 約2時間20分
 盛岡—角館 約1時間20分
 秋田—角館 約1時間10分

※角館駅下車・武家屋敷通りまで徒歩20分、タクシーで5分